

## [03\_01]九州大学大型計算機センター広報 : 3(1)

<https://doi.org/10.15017/1467966>

---

出版情報 : 九州大学大型計算機センター広報. 3 (1), pp.1-55, 1970-02-24. 九州大学大型計算機センター  
バージョン :  
権利関係 :

## プログラム指導にあたって (指導員講習会懇談会より)

昨年11月27・28日に、プログラム指導員講習会がセンター会議室で開かれました。一応、上級講習会ということで、現在各連絡所でプログラム指導にあたっておられる方にお集まり願ひ、モニタの話、リモートバッチの試験的使用などを行なったわけです。その際、プログラム指導上の問題点についても話し合ってもらいました。

### ◎ 指導にあたって困ること

- (1) 問題やフローチャートを持ってきて、プログラム作成を依頼する人がいること。

プログラム相談は、文法上の問題、エラーの処理、利用上の手続きを主な内容としています。時間的に余裕がある時(相談が少ない時)は、プログラム講習会の初級程度の内容で、どうしたらプログラムが組めるかを説明する程度のことはできますが、プログラム作成のサービスは行なえませんので了解してほしい。

- (2) 自分のプログラムをよく理解しないで相談にくる人がいること。

これは論文中のプログラムや先輩などのプログラムを借りて使用している人に多いのですが、相談の際には「プログラムのどの部分でどのようなことを行なっている。」かということが明らかでないで指導が行ないにくいことがしばしばあります。「このプログラムで、このデータを計算すると結果がでるはずなんですけど……。」というのが一番困る。

- (3) 現状をはっきり説明しない人。

「今まではうまく実行できていたのですが今度のだけがうまくいきません。プログラムは少しも変わっていませんので、計算機のエラーではないですか。」ともちかけられて20~30分もプログラムを検討してもあやしいところは全くない。計算機のエラーかと心配したとたんに、「そう言えば入力データを変えましたけど……。関係ありますか?」というわけである。指導する側としては、できるだけ簡単、明瞭に現状を説明してほしい。

- (4) 電話での相談

電話という媒体を通すと、現状を説明するにも一方通行になってしまいます。リストを見ながら相談をうけるわけではありませんので、適格な指示が与えられない場合が多くなります。必ず直接、相談室に来ていただきたいと思ひます。遠隔地の利用者は、できるだけその連絡所の指導員にご相談ください。その上で疑問がある場合は、「指導員対指導員」で電話していただきたいと思ひます。(九大構内のプログラム相談室より)

プログラム相談も初期の段階においては、文法上のエラー、エラーメッセージの意味、リストの見

方などが主なものでした。最近は、実行中のエラーに集中してきたようです。

指導員をしていて感じる小さい喜びの一つは、長い間相談に応じていた人から「この間からのプログラムはうまく実行できるようになりました。」と声をかけられるときです。「プログラム相談を引きうけると自分自身の勉強になるので、一般の利用者も少しプログラムが書けるようになったら、指導員になれるのも良いのではないか。」という声もありました。

プログラム相談にまだ慣れていない時期に、センター職員の未熟さから、各連絡所の指導員や利用者の方々に、ちぐはぐな返答をして、大変ご迷惑をかけたことと思います。誌上からお詫びいたします。

## 遠隔地利用者の希望

(指導員講習会懇談会より)

懇談会の席上、特に遠距離でジョブの郵送時間がかかると思われる連絡所の指導員の方から次のようなご希望がありましたので次にあげてみます。

◎ 連絡所からの利用の場合、穿孔後計算というシステムを作ってほしい。

センターとしては必ず穿孔ミスがあるから、利用者の手で1回渡してチェックしてもらうのを立前としていました。計算機にかけるといことは大きな責任問題となるわけです。ところが、1回のチェックで穿孔ミスをすべて洗い出すことはむずかしく、コンパイル時点でエラーとなることが多いので、郵送時間を1回分短縮するという意味でも、穿孔後計算を作ってほしいという希望があります。考えてみますと、FORTRANの場合などは、1回のコンパイルによってほとんどのエラーを見つけることができます。ご希望の方についてはこの穿孔後計算を行なったらどうかと、現在センターで検討しています。

◎ 計算後センターで結果をチェックしてほしい。

これも郵送時間の短縮に関する問題ですが、計算結果をチェックして修正できる場所は修正して計算してほしいという意図はよくわかりますが、電話で連絡をとるにしても東大センターにおける経験からみても決してうまく行くとは思えません。センター職員は上記のチェックなどの作業の責任は持てませんのでご了解ください。

◎ ジョブの実行中にジョブ種別を変えたい。

これは、Aジョブを実行してうまく進行した場合、Bジョブに変えて実行したいという意味ですが、九大センターのシステムでは行なえません。

この他に、各連絡所の現状についてのお話の中で、プログラム指導員が利用者の相談に応ずるのはもちろんのこと、ジョブの受付、荷造り、発送の仕事までせねばならない所や、計算依頼のたびに公